米内ひろまさ 未来への挑戦

—日本をリードする岩手へ—

岩手を未来へつなぐ 県政レポート vol.1

Challenge!

ご挨拶

令和２年９月をもって岩手県議会議員に初当選をさせていただいてから１年が経過しました。この間、多くの皆様方に支えていただいておりますことに心から感謝を申し上げます。

当選をしてから１年という短い期間の中で令和元年台風 19 号による大雨災害をはじめ、世界的な感染拡大を巻き起こしている新型コロナウイルスの流行など、岩手県政には数多くの課題が突き付けられました。特に新型コロナウイルスの感染拡大については東日本大震災以来の未曽有の大災害であり、全世界的に多大なる影響を及ぼしております。このような状況下において行政には日々重大かつ迅速な決断が求められ、一つ一つの決断の成否が国民、県民の生活に大きな影響を及ぼします。私はこの１年間を通して、難しい局面において最善の策へなるべく早くたどり着くために、政治家には柔軟な物事の考え方、そして幅広く多くの意見に耳を傾けることが重要であると再認識いたしました。

目まぐるしく社会情勢が変化する中において、地域とそこに暮らす人々の生活を守るには変化をし続けるしかありません。人間は元来変化を恐れるものですが、私は挑戦する勇気をもってその変化に対応し、より良い地域を創造できるように精進してまいります。引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和２年 11 月１日　岩手県議会議員　米内 紘正

当選後1年間の軌跡

1. 決算委員会

2019年9月定例会の決算特別委員会において初めての質問をいたしました。農業分野ではスマート農業やスマート畜産の普及について、文化・スポーツ分野ではマンガやeスポーツ、盛岡シティマラソンなどの文化スポーツ振興政策について若い世代の視点から質問を行ないました。時代の変化スピードが加速している現代において、最前線の技術にキャッチアップしていくことが世界から取り残されないために重要であり、そのためには若い世代の好奇心や柔軟性を政治の世界にも取り入れていく必要があります。1990年代以降に生まれた世代、いわゆる「デジタルネイティブ」は生まれたときからインターネットがある世代です。その世代が大人になり社会に出るときに岩手県を選んでもらえるように制度設計を含めあらゆる分野で一層のデジタル化の進展を図る必要があります。まずはその第一歩として行政のデジタル化を訴えてまいります。

2. 市町村要望調査

2019年11月、県内33市町村へ要望調査を行いました。自由民主党岩手県連では毎年岩手県内33市町村すべてへ足を運んで、県政や国政に対する各市町村の要望の聞き取りを行なっています。同じ岩手県といえども内陸と沿岸、県北と県南で状況は全く異なります。まだ岩手県に来て日が浅い私にとっては岩手県内をくまなく回り、現場の声を聴くことが何よりも勉強になります。課題解決のヒントは現場にあります。現場を知らない中間管理職にならないように引き続き足を使って地道に聞き取りを行なってまいります。

3．中央要望活動

2019年12月、中央へ要望活動を行なってまいりました。岩手県内33市町村をまわって聞き取りを行なった要望結果を麻生太郎財務大臣や加藤勝信前厚生労働大臣、岸田文雄前政調会長などへお伝えしてきました。2019年10月に日本を襲った台風19号災害からの復旧に関する要望が多く、気候変動によって大雨・洪水・台風災害が増加している昨今においては災害前の状態に復旧するのではなく、今後の災害に備えてより強固な復旧を図る「改良復旧」が各自治体から強く望まれました。

4．一般質問

2019年12月定例会において一般質問を行ないました。選挙中より訴えておりました「人口減少問題」について80分にわたり一問一答形式で県知事及び県執行部へ質問・提言を行ないました。質問の中では地理的及び気候的に類似点の多い富山県（東京から新幹線で約2時間、冬期は寒冷で積雪が多い）を例に、なぜ富山県では直近3年間において人口流出をほぼゼロで食い止めているにもかかわらず、岩手県においては毎年5000人の人口流出が起こっているのかを問いました。明確な答えは返ってきませんでしたが、特に若年層の人口流出が多い岩手県において、他県と政策を比較し良いところは模倣することで、まず人口の社会減を食い止めることが人口減少問題の解決・地方創生につながるものと確信しております。

5．県政報告会、松園県政報告会

12月には盛岡市内全域を対象とした県政報告会、2月には松園地区を対象とした松園地区県政報告会を開催しました。寒い中、大勢の皆様方にお集まりいただき大変感謝しております。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、報告会を開催できておりませんが、SNSなどを駆使して引き続き活動報告・情報発信を行なってまいります。

6．予算委員会

2020年２月定例会における予算特別委員会にて質問を行ないました。当委員会においては移住定住に関する課題及び県営住宅に関する課題について質問・提言を行ないました。移住についてはいかに多くの人々に岩手県に興味を持ってもらうか、どこの誰に岩手県に住んでほしいのかなど緻密なマーケティングが必要不可欠であり、５年間民間企業に勤めた経験から、その分析手法について提言をいたしました。県営住宅については現在老朽化とそれに伴う空き室の増加の問題が顕在化しており、このまま放置すると問題が深刻化してしまう恐れがあります。そこで県営住宅に関する県の長期的な戦略を問いました。

7．新型コロナウイルス対策要望調査

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、自民党岩手県連では緊急的に県内33市町村及び各種業界団体にヒアリングを行いました。新型コロナウイルス感染拡大期においては医療物資の不足を訴える声が多かったものの、市町村、業界団体によってその要望は多岐にわたるもので、それらの声を県、国へ届けてまいりました。緊急時においても各分野においてきめ細かな政策・対策を実行するには何よりも現場の声を聴かなければ実情を把握できないことを肌で感じました。

新型コロナウイルス感染症に関する主な活動

３月１日	自民党岩手県連新型コロナウイルス感染症対策本部立ち上げ
３月10日	県知事へ第一次要望
３月26日～30日	各業界団体から第１次要望ヒアリング
４月３日	政府・自民党への第１次要望
４月９日～13日	県内の郡師医師会からのヒアリング調査
４月16日	県知事への第二次要望
５月18日	政府・自民党への第二次要望
５月18日～22日	各業界団体への第二次要望ヒアリング
６月１日～３日	県内33市町村からの要望ヒアリング
６月11日	県知事への第三次要望
７月７日	政府・自民党への第三次要望

8．環境福祉委員会

県議会議員は各自一つの常任委員会に配属されますが、私は主に医療福祉、環境問題などを取り扱う環境福祉委員会に所属することとなりました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、その対応策に関する議論に多くの時間が費やされました。岩手県は日本国内において最後に新型コロナウイルス感染者が確認された地域となりましたが、医療従事者の皆様方をはじめとした県民の皆様方の多大なる尽力により新型コロナウイルスの感染拡大を大きく遅らせたことに心より感謝を申し上

げます。そのおかげで、医療体制が脆弱と言われる岩手においても、新型コロナウイルスに対する医療体制を整備する時間ができたと感じております。2020年９月の委員会視察では秋田県の医師会や弘前大学に伺い、新型コロナウイルス感染症に関する対応策を伺ってまいりました。引き続き、岩手県内の感染症対策をより強固なものすべく取り組んでまいります。

9. その他の活動

岩手県議会には約 30 の議員連盟があり、当選一期目の議員はそのほとんどの議員連盟に所属することとなります。議員連盟では専門家を招いたり、現地へ赴いたりすることで様々な分野にわたって知識を習得し、政策の立案や提言に活かしております。また、議会活動以外にも地域と密接に繋がり、地域に寄り添った政治が実現できるよう日々、地域活動にも参加しております。

薮川にてとうもろこし収穫体験

株式会社 花巻バイオマスエナジーを視察

松園 Reborn（リボーン）プロジェクト

盛岡市の松園地区は約 50 年前に開発されたニュータウンであり、全国各地のニュータウンと同様に高齢化、少子化、空き家の増加などの問題に悩まされています。

そこで今年度、住民の有志が「松園 Reborn プロジェクト」を立ち上げ、まちの活性化の取り組みを開始しました。私も松園地区の一住民として事務局長を仰せつかっております。

松園地区の取り組みは内閣府の「住宅団地再生事業」に採択され、全国 7 ヶ所のうちの一つ、東北・北海道地区では唯一、内閣府のハンズオン (伴走型) 支援を受けることとなりました。今回松園地区がモデル地区として成功すれば、県内各地のニュータウン、あるいは全国へその取り組みを展開し、人口減少や空き家問題に悩まされている地域の皆様方に還元することができます。行政主導ではなく住民主導のまちづくりの先駆けとして、地域の皆様方の声に耳を傾け当事業を成功させたいと思っております。

米内光政生誕 140 年、首相就任 80 年

米内 光政（よないみつまさ）
(1880-1948)

岩手県盛岡市出身。海軍大将。
連合艦隊司令長官・海軍大臣を歴任後、1940 年、第 37 代内閣総理大臣に就任。日独伊三国同盟締結に抵抗して太平洋戦争開戦に反対したが、陸軍と対立し辞職に追い込まれた。のち最後の海軍大臣をつとめ、終戦処理にあたった。

終戦後 75 年の節目である 2020 年は、米内光政の生誕 140 年、首相就任 80 年の年でもあります。第二次世界大戦が終結し、その後 75 年間のなかで世界大戦は起きていないものの、依然として世界各地で紛争が勃発する現在の世の中を米内光政が見たときにどのように感じるだろうか、と考えることがあります。軍人でありながらも最後まで世界平和を望んだ米内光政の意思を忘れずに、信念をもって人生を歩んでまいりたいと思っております。

■プロフィール

米内 紘正

昭和 62 年　5 月 14 日生まれ、盛岡市東松園在住

経　歴

平成 15 年　3 月　私立開成中学校卒業
平成 18 年　3 月　私立開成高等学校卒業
平成 23 年　3 月　東京大学農学部卒業
平成 23 年　4 月　日本調剤株式会社入社
平成 28 年　5 月　衆議院議員鳩山邦夫 秘書
平成 28 年 10 月　衆議院議員鳩山二郎 秘書
平成 30 年 10 月　自由民主党岩手県支部連合会青年局次長に就任
令和 元 年　9 月　岩手県議会議員 初当選

中学、高校、大学はバレーボール部に所属（中学、高校時代は主将を務めました）

所属している委員会

環境福祉委員会
人口減少対策特別委員会

所属している組織

岩手県スケート連盟顧問
岩手県バレーボール連盟顧問
盛岡青年会議所

趣　味

釣り、魚料理、旅行、
バレーボール、映画鑑賞

コラム　盛岡に移住してから２年が経過して

盛岡に移り住んでから約２年の月日が経過いたしました。２年前、ひとりぼっちで始まった盛岡生活でしたが、選挙までの１年間、そして初当選をしてからの１年間数えきれないほど多くの皆様方のお力添えをいただき、今の私があると思っております。おかげさまで、今年６月、盛岡でご縁をいただいた方と結婚いたしました。この岩手、盛岡を終の棲家とする決意で２年前この地に参りましたが、その決意は一層強いものとなりました。

東京での生活が長かった私ですが、盛岡から 1500㎞ほど離れた福岡県久留米市で議員秘書として経験を積んだことで、その土地に住み暮らす人々にはその土地の歴史が大きな影響を与えていることを実感することができました。同じ日本といえど、県民性というものはこれほどまでに地域に色濃く反映されているんだな、と。これは東京では感じえなかったことです。だからこそ外からの目線でこの岩手・盛岡のいいところにも悪いところにも目を背けずにしっかりと向き合い、その地に合った政策を考えていかなければいけないと思っております。

私の趣味は釣りです。今はなかなか行く時間がないですが、岩手県内の川・湖・海に足を運んで、日がな一日、その土地とそこに住み暮らす人々、歴史に思いを馳せながら釣り糸を垂らしたいなぁと考えている今日この頃です。

米内ひろまさ事務所
〒020-0107 盛岡市松園１丁目 5-17
TEL.019-613-5016　FAX.019-613-5026
mail. hiromasa@yonai.info

米内ひろまさの最新情報はこちらから
https://ja-jp.facebook.com/hiromasa.yonai